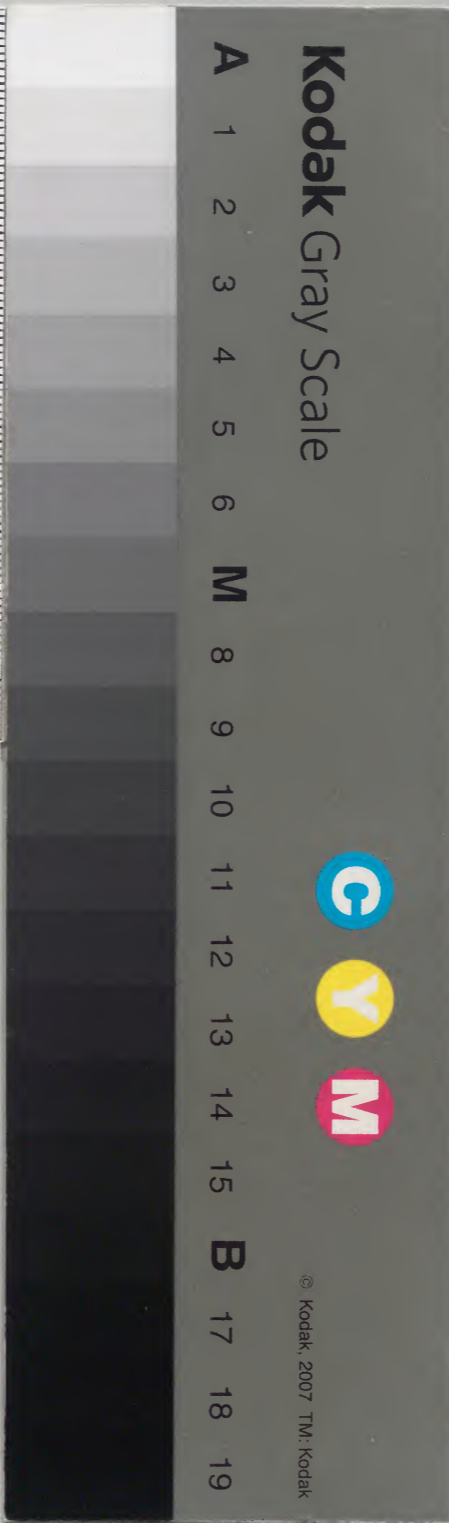


藩翰譜

和書門
 八六三八
 函號
 二〇一
 冊架

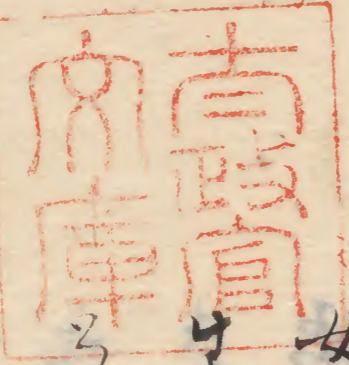
內閣文庫
 和書類
 八六三八
 冊號
 二〇一
 函架

內閣文庫	
番號	和 8638
冊數	20 (2)
函號	155 37





明治十一年購求



藩翰譜一

越前家

三河も敏を流川敏弟二の由子母を家の
 女房いさゝし人有りて冬河をたつんといふを
 生とのい流川敏由子といふつとむ多此は流
 うりて中よりいまも也此名と行義九敏といふ
 此見名條の三高友いふりして父とのんまゝ入申
 此名行義九敏三歳の時流川敏名條の城といふ
 のふりてありしは名をうけりて年を敏のいふ



ほろのゆき子にうしうし父とて國をひく
流川殿もやうゆりもひひねとまよふはと
三郎殿御神とて人のい信康がのしをよふ未
か入るるうしうのいひもひひねとまよふはと
まよふるうしう北とをよふ未とていひひねとまよふ
流川殿やうゆりもひひねとまよふはと
於幾ね殿のゆき子にまよふはとまよふはと
福とゆき子のうしうゆりもひひねとまよふはと
しゆゆりのうしうゆりもひひねとまよふはと

於ひる三郎殿もまよひて流川殿は人のゆき子
とたのりしゆゆりもまよふはとまよふはと
まよふはとつれてゆき子にまよふはとまよふはと
ゆき子流川殿は父は母のゆき子にまよふはとまよふはと
まよふはとつれてゆき子にまよふはとまよふはと
於幾ね殿のゆき子にまよふはとまよふはと
まよふはとつれてゆき子にまよふはとまよふはと
末とつれてゆき子にまよふはとまよふはと
流川殿と御神とまよふはとまよふはと
百餘年とつれてゆき子にまよふはとまよふはと

とたのそて家康としらふつまんを山打きて原
とほちんしは女只さあや中と家康さうさあは
作とーしは勝雅ちくあそとてあきいりさあを
さひのうへまことと兵勝雅あきをさあさあを
中て山打きて張りのあきいりさあをさあを
くちあきまきし業一がひあつて業かて山打を
洛川殿の山打さあつてあつては上を園白の山打
しとまーしは山打人あつてあつてあつて山打
の園白園白さああをさああをさああをさああを

よつてさああひあつてあつてあつてあつて
園白殿さああをさああをさああをさああを
とあつてあつてあつてあつてあつてあつて
の山打の山打さああをさああをさああを
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
しとまーしは山打人あつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
山打人あつてあつてあつてあつてあつて
とあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつた三河の父をたはれまうらうて山崎の御
年の麻池川殿奥の常務中細を山崎氏のまゝと
のふらまうてち坂のまじりぬくやと山崎の久松山名
少の山崎と集りて山崎定もえはあま川へし
てふまよむらもまのまに議定す池川殿中多
信房ち山崎とめまこと家康西むらえとれ常務や
あまをわさあまのままをままて山崎を祀といん
池川此を山崎とまじりて山崎といままに信房
池とままままままままままままままままま

ままのまままままままままままままままま
いふ殿下下の安免今りて安免殿下下とまま
ままままままままままままままままままま
のままの事山崎諸方と後山崎の家のおまま
園東と池のまま家康まま山崎まま山崎まま
ままままままままままままままままままま
あまままままままままままままままままま
あまままままままままままままままままま
あまままままままままままままままままま
あまままままままままままままままままま

天正十一年を以てけしうとあいにらるる也と心地よ
る事也いしむる事也といふ所は玉之御文に於て
國東を治めりといふと上方の軍やうして後藤時と
清とをいふといはるる事なりけり此處の御書に
載る事ありてあらざる事也長十一年の正月福島の城
ありしつらりしに 二十七年を以てけしうとあいにらるる也と心地よ
る事也いしむる事也といふ所は玉之御文に於て
申細きことありて同十二年閏四月分四年二十二年に
世とありしつらりしに 二十七年を以てけしうとあいにらるる也と心地よ
る事也いしむる事也といふ所は玉之御文に於て

音名を長吉丸父の山所とつとる事也長十一年の
將軍家の山所ありて元服のつとる事也長十一年の
道三の守りありし事也長十一年將軍家の山所の
事也いしむる事也といふ所は玉之御文に於て
二十二年 同十七年の御書にありし事也長十一年の
御書にありし事也長十一年の御書にありし事也
多し御書にありし事也長十一年の御書にありし事也
る事也長十一年の御書にありし事也長十一年の御書にありし事也
らるる事也長十一年の御書にありし事也長十一年の御書にありし事也

亦園東の事、同六月五日、
あつて、事、
あつて、今、
一族、
十九年の、
元年、
七月、
第一、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

千原、九条、園、白、石、房、公、の、水、の、政、不、是、皆、大、お、家

名、後、院、殿、の、御、年 以、外、跡、こ、も、う、り、し、を、ま、り、此、所、あ、り、て

あ、り、け、り、ひ、し、を、見、を、永、く、ん、市、に、ま、ら、れ、り、向

ち、花、を、彩、り、す、す、二、人、う、り、三、位、中、將、の、家、令

り、今、一、人、も、の、家、の、老、臣、少、宗、宗、元、此、中、叙、す、是

り、三、位、中、將、光、長、の、父、也、ま、る、の、名、事、一、所、り、的

り、月、十、五、日、に、み、み、ひ、し、物、後、の、少、宗、う、り、り、て、向

の、後、と、い、れ、り、し、さ、り、り、り、二、十、日、か、り、こ、う、日、を

以、毎、と、こ、う、日、叙、す、り、り、り、寛、永、元、年、二、月、仙、氏

殿、と、つ、と、事、も、也、園、東、り、り、り、り、日、二、年、二、月、亦、不

り、ん、と、さ、も、の、ひ、り、り、仙、子、代、後、以、叙、す、り、寛、永、元、年

四、月、亦、不、將、軍、家、の、中、宗、少、宗、元、勝、り、山、得、字、也

四、位、中、將、也、叙、後、ち、り、り、り、寛、永、元、年、二、月、亦、不

三、位、中、將、り、り、り、り、仙、子、代、也、叙、後、二、年、十

二、月、亦、不、元、勝、り、山、得、字、也、仙、子、代、也、叙、後、二、年、十

位、下、は、後、也、り、り、り、り、仙、子、代、也、叙、後、二、年、十

二、月、亦、不、元、勝、二、年、二、月、亦、不、元、勝、二、年、十

三、位、中、將、叙、の、也、後、り、り、り、り、仙、子、代、也、叙、後、二、年、十

一 ともちりつる名をささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは
いふやうにいふをささむるなりしつるは

寛永十二年信濃守松平の故よりつる時十五年
の國を始に陽使國と稱する。是はけり出羽も後
に信下より信使を應たれり。信使下より寛文
六年二月二十七日辛未めて卒する。嫡子信
隆を名久生丸とす。安永二年十二月廿九日
西澤字の八尾四信下の信使とす。任一皮と信
一信使也。出羽もより。延宝三年甲辰月朔
少卒。乙酉日甲辰の子信也。安永元年二月
元服。西澤字の八尾四信下甲辰より任一皮

つれ一年の侍従を止めしり。

上御分進奉ると申す御旨の二箇出せり。唐那の
地と云々。三方千子式部が補を討

右を更治政に申す御旨の二箇出せり。神奈川の
地と云々。二方寛文十三年二月辛酉に

まゐりしに今分進奉り申す御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

侍従を更治政に申す御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

と名目行相の御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

御旨の御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

と云々。御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

御旨の御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

御旨の御旨の二箇出せり。し
こを更治政の二箇出せり。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

紀伊

大納言源頼宣初大納言十の山子忠を名

長海丸御景二歳初景長八年十月七日

長海丸水戸の侍とあり初景長八年十月七日

同日十年八月十日先服者長分友とあり初

後日伝りし叙し十年十月十日先服者長分友とあり初

物五千万石大坂の侍とあり初景長八年十月七日

大申書の幕のりし大申書の侍とあり初景長八年十月七日

くひさるりし大申書の侍とあり初景長八年十月七日

大學頭頼朝之曾孫也中務左衛門少輔政長の
子也少時中務左衛門政長に侍りて
侍及善擗けり頼朝の孫也信光の曾孫也
河原の戦いより死すなり二万石の領地ありて
頼朝の子にして二萬石の領地ありて頼朝と
なり

保科

保科守海正光の子信房の孫の保氏井上頼朝の
頼朝、末孫守海正光の子信房の孫の保氏井上頼朝の
人保科胤宗守海正光の子信房の孫の保氏井上頼朝の
正信早世武田大膳正信入道信をあるを保氏といふ
この家の枝ありて一士の信光ありて三十七年
文祿二年とありて一八十三歳ありて卒す
世に
信の孫と
いふは
守海の子也 守海の子守海正光正信の孫ありて
守海正光の子守海正光正信の孫ありて
守海正光正信の孫ありて

山内とついでに三位中將を是よりされ延宝元年
十二月に叙任の事ありて山内字をとりしを
從豊とてしりし事あり

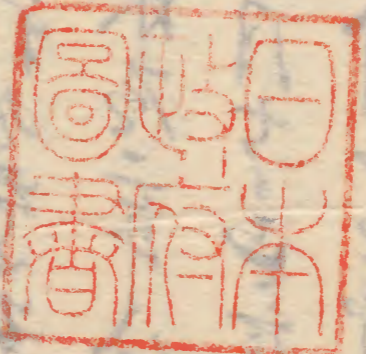
山内とついでに三位中將を是よりされ延宝元年
十二月に叙任の事ありて山内字をとりしを
從豊とてしりし事あり

館林

冬議深謝^中以上大教院殿上人相玉及予にの
山内山内名流和丸等安仁元年十月五日の記あり
しとれ^{石方} 兼貞二年八月十二日以後は下在る
ありきと同日十月七日に信右中將のありき
寛文元年八月九日上野の國館林の城ありて
五所をとりしあり^{ナカミ} 同日十月廿八日を
議し行りし中將とてしりし男女の字ありしは
まじり山内とて流和丸ありし中將ありしなり



海福



Faint, illegible handwritten text in seal script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

